1 ダンボール箱の印刷・裁断作業　2 3 様々な型抜き加工のため刃が取り付けられた木枠を使用。安全のため刃の周りにはクッションが施されている。4 最近は個人からの仕事の依頼もあり、特殊なものを作ると喜んでもらえるのが何よりと語る前田代表取締役　5 同社は自前で商品を配送している

造 作 創

かわちながの ものづくり探訪

Made in Kawachinagano

23

ダンボールのことなら何でも対応

株式会社 大阪ケース製作所

高向小学校の近くにある株式会社大阪ケース製作所は様々な用途のダンボール箱や包装資材を製造する会社です。もともとは金剛駅付近にあった会社を現在の代表取締役である前田高延（まえだたかのぶ）さんの父、清久（きよひさ）さんが昭和62年ごろに知人から譲り受け滝谷で開業。平成17年ごろ現在の場所に移転しています。

ダンボール箱の製造は印刷、裁断、折り易くするための罫線入れ、型抜き加工が主な工程です。同社では一般的なダンボール箱のほか、特殊なサイズや加工の難しいものなど、一日に1万個、年間約300万個を製造しています。コスト面や手間などから、同業他社では受注できない注文が多く寄せられるのも同社の特長。窓枠のゴムを巻くために加工した「エコダンドラム」（写真右下）は特殊な製品の一例。従来のものは木やプラスチック製ですが、ダンボールで作ることで、コスト面も含め、利便性の高い製品となっています。また、同社の型抜き加工技術の水準は高く、刃を取り付けた専用の木枠で様々な要望に対応。「ダンボール以外にもゴムやプラスチックなど薄い素材の加工もできますよ」と前田社長。

同社の強みはダンボールに関して、できないと言わないこと。可能な限り、何でも対応するという姿勢は社長のほか、従業員にも徹底しています。最近では、個人の注文も増え、古くなったひな人形の箱を作り直したり、新聞の読書台を製作するなど多様な依頼にも応えています。

「お客様はもちろん、仕入れ先、従業員など会社に関わるすべての人を愛し、愛される企業を目指したい」と前田社長。働きやすい環境を提供するため、受注を取捨選択し、残業の削減や有給休暇の取得を励行。また、若手の従業員に新規事業を任せることで、本人の成長を促し、やりがいを持って働けるよう工夫もしています。「若い人が夢を持てる会社にすることで、長く続く会社になれば」と前田社長の想いは広がります。

株式会社 大阪ケース製作所
パートも含め13名の従業員はアットホームな雰囲気で、お客様に喜んでもらうことを第一に仕事に取り組んでいます。
高向94　☎54-0702
http://osakac-s.com/

▲「エコダンドラム」はひもなどを巻くためのダンボール製品。手間がかかるため、他社ではあまり製造されない。

河内長野市役所：〒586-8501 大阪府河内長野市原町一丁目1番1号
☎0721-53-1111(代)　FAX 56-1761 ☎54-1000(留守番電話)
発行：河内長野市　編集：総合政策部広報広聴課
毎月1日発行　4万8700部作成(1部当たり21円)
お知らせ電話で休日急病診療所の日程などを24時間案内中 0120-930-073
河内長野市ホームページ▼